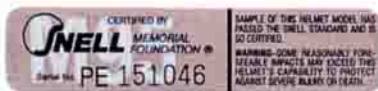


軽くて、強い。しかもコンパクト これがアライのスネル製品です。



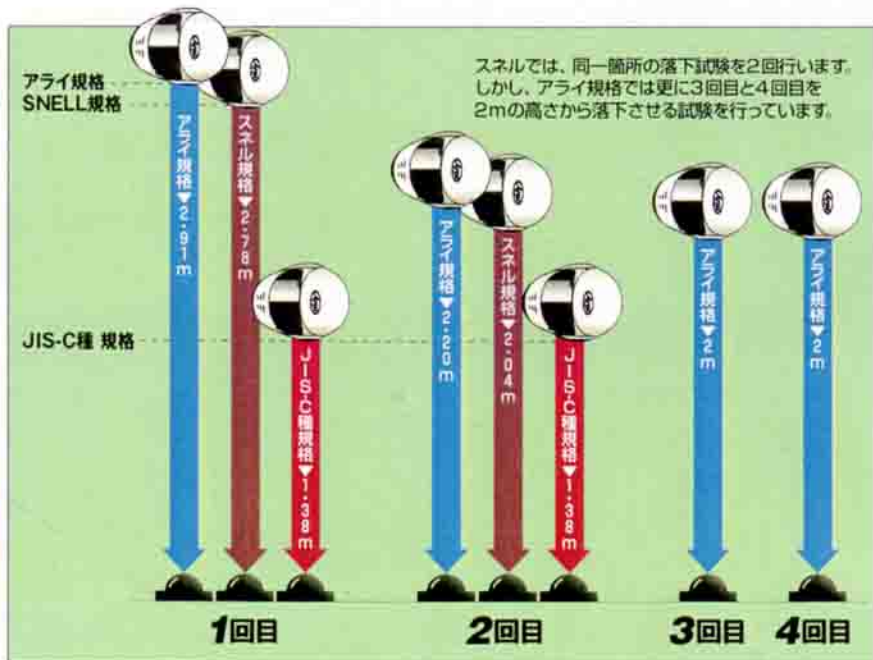
アライは、ヘルメットの重要な役目である衝撃吸収性能について、
もっとも厳しいとされるスネル規格よりも
更に厳しい独自のアライ規格を設け、それにパスしたモデルのみを、
アライのスネル規格品としてお届けしています。



ヘルメット内側に貼られている
スネル規格品のラベル



アライの衝撃吸収性試験



衝撃吸収性能試験とは、ヘルメットをかぶせて落下させた人頭模型が受ける衝撃を測定するもので、スネル、JIS-C種共、300Gを越える加速度が加わってはならない、とされています。中でももっとも厳しいとされるのが半球形アンビルによるテストです。これは非常に厳しいテストですから、JIS-C種の落下高さは1.38mという背丈より低いレベルに抑えられています。スネル規格ではその半球形アンビルに対してもJIS-C種の2倍以上の大きな衝撃でテストします。(スネルは、現在5.5kgの人頭形を使用しているため2.78mとしていますが、JISの標準サイズの人頭形の重量でエネルギー

換算した比較では3.06mとなります。)そして、アライでは、そのスネル規格よりも数パーセント厳しいアライ規格を独自に設定しています。それは半球形アンビルへ同一箇所を、1回目2.91m(3.20m)、2回目2.20m(2.40m)でテストした後、スネルにもない3回目、4回目を2.00m(2.20m)で落下させるテストです。(()内はJISの標準サイズの人頭形の重量で、エネルギー換算した落下高さ)アライは、このアライ規格にパスするように作られた製品を、アライのスネル製品としてお届けしています。



これだけ厳しい条件を課しながら、cLc

を採用した標準サイズの製品重量は、アストロI、GOTH、ラバイドLなどフルフェイス主力製品で1400g台前半。MX-3やVX-2などオフロードタイプで1300g台前半。国内では唯一スネルの安全性を持つオープンフェイスのSZシリーズやアップタウンでは、1200g台の軽量化を実現しています。しかも、頭を保護し、空力特性に優れた、フォームは、無駄なくコンパクトに仕上げられています。



これがアライの技術開発の積み重ねの結果です。ぜひ手にとって確認してください。